

スタッフインタビュー

S. T

- ・ 建造物分野
- ・ 2021 年入社／新卒採用
- ・ 建築学科 修了



外から日本の歴史・文化を考える

幼少期に海外で暮らしていた経験があり、友人から「日本はどんな国なの？」と聞かれた際に、うまく説明できなかつたことが心に残っていました。そこから母国である日本についてもっと知りたいと思うようになり、帰国後は日本の歴史や古典文学に興味を持ち、その舞台となった史跡を訪ねるうちに古建築に魅了されていきました。

高校生の頃、たまたま訪れた神社で文化財建造物の修理工事が行われており、そこで修理技術者という仕事を知ったことが現在の進路への入口でした。大学では建築学科に進学し、建築史研究室で日本建築史を中心に研究を行っていましたが、研究に没頭する一方で、文化財の修理への関心も持ち続けており、文化財の勉強や調査研究、関連機関でのアルバイトなどにも取り組んでいました。

就職先として一般建築の設計事務所に進むことも考えていましたが、京都アニメーション放火事件や首里城の焼失など文化（財）が失われる出来事に触れる中で、「自分が研究できているのは、歴史資料が奇跡的に現代まで継承されてきたからだ」と強く感じるようになりました。未来のために何か一つでも残す仕事に関わりたい、そう思うようになったことが、この道に進む大きな転機です。

研究室の先生から弊社の社員を紹介していただき、話を聞く中で、幅広い文化財に関わることができる点に魅力を感じ、入社を決意しました。

仕事内容

近世から近現代の建造物を中心に、実測や史資料調査、保存活用計画の策定、保存修理の設計・監理などを担当しています。特に興味があるのは保存活用計画の策定です。丁寧な調査をもとに文化財の価値を整理し、保存と活用の両立のために何が必要かを、所有者や行政、有識者の方々と一緒に考え、計画としてまとめていく仕事です。

一方で、計画には将来的な修理を見据えた内容を含むため、設計・監理の経験も欠かせません。まだ経験は浅いですが、破損などの課題に対してどのような修理や補強が必要かを具体的に考える必要があり、建築の構法や施工に関する知識も求められますし、生みの苦しみも感じます。調べたり、周囲に相談したりしながら、一つひとつ経験を積んでいます。

文化財と向き合うということ

建築がもともと好きなので、間近で触れられること自体が大きな喜びです。細かいところまで見ていると、美しさに感動することもあれば、思わず微笑んでしまうような意外なつくりを見つけることもあり、飽きることはありません。担当している文化財には愛着が湧き、わが子のように感じることもあります。

現場では忙しく、小屋裏や床下で1日過ごしたり、建物内を2万歩以上も歩き回ったり、暑さや寒さなど体力的に大変なことも多いですが、その分、実際に文化財と向き合うことで得られる学びも大きいと感じています。大学時代は近世以前の建築を専門としていたのですが、仕事を通じて近現代建築や土木構造物、史跡など、これまで触れてこなかった分野に関われることも刺激的です。

木材、コンクリート、レンガやタイルといった多様な素材、それに建造物だけでなく、図面や古文書といった資料も幅広く扱うため、日々勉強の連続ですが、同じものが一つとしてない文化財に新鮮な気持ちで向き合えることが、モチベーションにつながっています。恩師から「文化財の技術者には研究も大切だ」と言われたこともあり、学術的な視点も大切にしながら、研究と技術の両面から文化財を支えられる技術者を目指しています。

職場の雰囲気

アットホームな雰囲気だと思います。皆さん気さくに声をかけてくださり、仕事の相談はもちろん、ちょっとした雑談もしやすい環境です。分からないことがあれば丁寧に教えてもらえますし、個人的な相談に乗ってくださる方もいます。

在宅勤務など柔軟な働き方も選択できるため、ワークライフバランスは取りやすいと感じています。近年は若手社員も増え、会社としての育成体制も整ってきました。自分がしてもらったように、後輩をサポートできる存在になりたいと思っています。

休みを利用して国宝建造物めぐり

休みは比較的調整しやすく、夏休みを利用して建築旅行に出かけることが多いです。日本全国に233件(2025年12月時点)ある国宝建造物を全制覇することが目標で、これまでに149件訪問しましたが、遠方のもも多く苦戦しています。また最近では少し背伸びをして文化財を活用したレストランやホテルを訪れることもあり、仕事と趣味が自然につながっています。

リフレッシュのつもりで訪れても、細かい納まりや部材の仕様、修理の方法などが気になってしまうこともあり、つい仕事目線で見えてしまいます。往時の最先端・最高品質の建築であった文化財に普段から触れていることで、観察力や審美眼が養われていることも実感しています。

この仕事に興味のある方へ

好きでなければ続けるのは難しい仕事だと思います。求められる守備範囲も広く、興味を持たなければ大変さばかりが目立つかもしれません。

ただ、文化財や建築が本当に好きであれば、これほど面白く、やりがいのある仕事はなかなかないとも感じています。一つとして同じものがない文化財に向き合いながら、未来に何をどう残すかを考え続けたい方と、一緒に働けたら嬉しいです。



国宝 室生寺五重塔
小さくてかわいかったです



最近宿泊した奈良ホテルの内装